1．弥治平の堰

水争いの時、用水路の堰を身をていして守ったという、弥治平の名前のついた堰。阿曽井堰の取水口には、弥治平を記念する石碑があります。

2．稗田神社

法隆寺領鵤荘の総鎮守社。江戸時代には太子妃の膳大娘（かしわでのおおいらつめ）をお祀りするといわれていましたが、現在は稗田阿礼をお祀りしています。稗田阿礼は、天鈿女命（あめのうずめのみこと）の子孫といわれ、飛び抜けた記憶力を持ち、その阿礼が聞き覚えた天皇家や諸豪族の言い伝えを太安万侶がまとめたのが『古事記』です。

正面のこま犬は、明治37年（1904）のもの。子供を連れためずらしいこま犬です。

3．鵤北山根の投げ石（鵤荘ぼう示石）

聖徳太子が鵤荘の境を示すために置いた「ぼう示石」といわれる石。太子の投げ石と呼ばれ、大切に守られています。

4．坊主山の地蔵

中世以来、墓地の山だった坊主山の六地蔵のとなりにある室町時代のお地蔵さん。

5．鵤藩陣屋跡

江戸時代初めの元和３年（1617）、池田重利が１万石の大名になり、ここに陣屋をつくりました（鵤藩）。しかし、10年後の寛永４年（1627）に新宮へ引っ越し、新宮藩になりました。その後、跡継ぎがいないために大名家としては断絶しますが、以後、旗本として幕末まで続きました。

お．庫裏（保性院）

慶安２年（1649）　兵庫県指定文化財

斑鳩寺を守る子院（塔中）の一つ。慶安２年(1649)の建立で、江戸時代前期の子院の建築として、きわめて貴重な建物です。

玄関の前の山茶花（さざんか）は、樹齢350年を越える古木で、太子町の天然記念物。ここから、さざんかが太子町の木に選ばれました。

か．聖霊権現社

文政10年（1827）　太子町指定文化財

聖徳太子をお祀りし、上宮（かんのみや）・稗田神社に対し、下宮（しものみや）と呼ばれています。秋祭り（10月第２土・日曜日）には稗田神社の神輿が渡御し、神輿が三重塔の横を練る光景は、今ではとても珍しいものです。

正面のこま犬は、文政４年(1821)の奉納。竜山石系の凝灰岩で作られ、ローカルなお顔です。

6．鵤北之町の道標

明治10年（1877）に建てられた道しるべ。ここが「おうくぁん（往還）」で、左に行くと龍野、右に行くと書写山・広峯神社だと書いています。この通りが、龍野への街道でした。

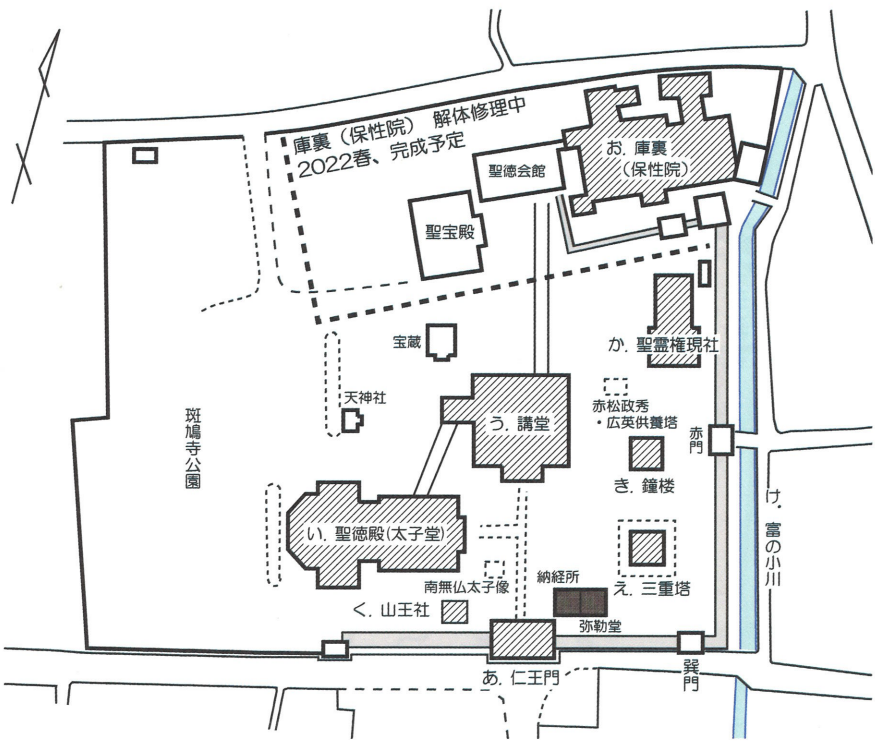
い．聖徳殿（太子堂）

寛文５年（1665）　兵庫県指定文化財

聖徳太子を本尊とする最も大切なお堂。今の聖徳殿（前殿）は、寛文５年（1665）に建て直されたもので、内陣の天井の格間には、美しい草木の絵が描かれています。

太子像を安置する八角円堂（後殿）は、伝統意識と大工技術の粋を集めて大正３年（1914）に完成し、平成19年（2007）に国登録文化財になりました。

ここに祀られる太子像は、唯一天文の大火の被害をまぬがれた「真仏太子」像で、太子16歳の時、父・用明天皇の病気平癒を祈願するお姿です。太子自ら刻まれたと伝えられ、頭には髪の毛を植えていますので「植え髪の太子」ともいいます。また、実際に御衣を着せていて、数十年おきに新調されます。今の御衣は昭和37年(1962)に高松宮様よりいただいたものです。



う．講　堂

明和６年（1769）　太子町指定文化財

天文10年の大火の後、龍野城主・赤松政秀が檀那、昌仙が願主になり、弘治３年（1557）に再建されました。現在の建物は明和６年(1769)に建てなおされたもので、背面の厨子に、向かって右（東）から薬師如来・釈迦如来・如意輪観音の三尊を安置しています。春夏の会式に扉が開かれ、丈六仏（坐像なので高さ２m余）３体が並ぶ様は迫力があり、壮観です。

中世の仏堂形式を踏襲しながら、彫刻や絵様は江戸中期らしい華やかな意匠で、あちこちに残された参詣者の落書きや千社札が、斑鳩寺のにぎわいをうかがわせます。

く．山王社

明暦２年（1656）　兵庫県指定文化財

元々、門前の中宮寺にあった建物で、延宝７年（1679）に斑鳩寺境内に移築、鎮守山王社になりました。小さな建物ですが、良材を使い、手の込んだ意匠で飾られた秀作です。

き．鐘　楼

元禄６年（1693）　兵庫県指定文化財

天文10年の大火の後、但馬・竹田城主になった赤松広英が、領内の楽音寺の鐘を贈り、天正20年（1592）、ようやく再建されました。すばらしい音が鳴る鐘でしたが、割れてしまい、元禄６年（1693）に姫路野里の鋳物屋で一回り大きな鐘に鋳直し、それに合わせて、鐘楼自体も大改修されました。しかし、今も屋根には天正20年当時の瓦が使われています。

あ．仁王門

寛文13年（1673）　兵庫県指定文化財

間口９mの大きな八脚門。軒の出が大きく、安定感があります。両脇には仁王像が安置され、大草履が奉納されています。

7．斑鳩寺（いかるがでら）

今から1400年以上昔、推古天皇の14年（606）の秋７月、聖徳太子35歳の時、太子は天皇に請われて勝鬘経を解説するお話をされました。同じ年、法華経のお話もされました。それに大へん喜ばれた推古天皇は、太子に播磨国の水田100町歩（約120ha）を贈り、太子はそれを法隆寺に納めました（『日本書紀』による）。法隆寺は、その土地を治めるために出張所のお寺をつくりました。それが斑鳩寺のはじまりで、太子みずからが建立されたともいわれています。

やがてその地は、法隆寺のもっとも大切な荘園・鵤荘となり、法隆寺はここを聖徳太子への信仰の力で治めました。天文10年（1541）、戦乱の最中に全焼してしまいますが、時の龍野城主・赤松政秀やその子・広英をはじめ、聖徳太子を慕う多くの人々の手助けがあってまもなく再建され、今も「お太子さん」の名で親しまれています。そして、聖徳太子の命日に行われる春会式（２月22・23日）、お盆の施餓鬼法要の夏会式（８月21・22日）には、聖徳殿の太子像や講堂の三尊の扉も開かれ、多くの参拝者で賑わいます。

え．三重塔

永禄８年（1565）　国重要文化財

高さ24.9mと規模が大きく、高さや幅、屋根の軒の出、反りなどのバランスがよく美しい塔です。さらに、組物の拳鼻や隅木持ち送りの意匠を層ごとに変えるなど、桃山時代の装飾豊かな建物の先駆けとなる、華やかな塔です。サルやシカもいるので、探してみましょう。

天文の大火の後、時の龍野城主・赤松政秀の志願により再建されました。

12．阿宗神社丁石

阿宗神社がこの北８丁（約900m）にあることを示しています。明治１５年（1882）に建てられました。

阿宗神社は、たつの市誉田町広山にある式内社。元々、立岡山にあったのを、鎌倉時代の初めに今の地に遷したといわれています。弘山荘の総鎮守社で、２月19日未明から行われる厄神祭で有名です。

8．鵤荘政所跡

今は溝にふたをしていてわかりにくいかもしれませんが、斑鳩寺の南東に、広い溝で囲まれた約200m四方の一画があります。かつて、ここに鵤荘の政所（役所）がありました。

け．富の小川

聖徳太子が斑鳩寺を建てた時に、この小川を「富の小川」と名付けたと伝えられています。「富の小川」というのは、奈良の法隆寺の東を流れる「富雄川（とみのおがわ）」からきています。

9．鵤本陣跡（旧）

江戸時代、街道を旅する大名は、休憩や宿泊の際には、必ず、幕府が定めた宿場町にある本陣を利用しました。

参勤交代の旅では、行列の人数が多いため、殿様は本陣に入りますが、家臣たちはまわりの旅籠や商家で休泊しました。しかし、ここは山陽道から300mほど北に離れて不便なため、だんだん鵤で休泊する大名が減ってしまい、安政４年（1857）、台風や地震で建物が壊れたのを機会に、山陽道沿いに移転しました。

本陣を勤めていた五百井家には、大名などの宿泊を記録した帳簿などが残され、歴史資料館で展示しています。

13．茶屋垣内の地蔵と一里塚跡

江戸時代末の弘化２年（1845）に、この西に住んでいた糀屋林兵衛が、家島で作ってお迎えしてきたお地蔵さんです。林兵衛さんは、お地蔵さんに百歳まで長生きできるようにとお祈りしたそうです。

このすぐ西に一里塚がありました。

11．北向き地蔵・大師堂

太子山の麓に、お大師さん（弘法大師・左）とお地蔵さん（右）があります。北を向いたお地蔵さんは珍しいということで、「北向き地蔵」といいます。江戸時代中頃の天明４年（1784）、鍵屋の先祖が建てたものといいます。

ここからまっすぐ、斑鳩寺に向かって参道があります。かつては両側に松並木があり、松の馬場と呼ばれていました。

10．播電（バンデン）の車庫跡

今から100年前、太子町を電車が走っていました。明治42年（1909）開業、日本で22番目、兵庫県下で２番目にできた電車です。昭和９年（1934）で廃止になりましたが、今もその跡が残っています。

現在、山上に聖徳太子像、ふもとに蒸気機関車D-51や児童館、民俗資料館がある太子山公園も、かつては播電の一大遊園地で、映画館やお化け屋敷、メリーゴーランドやレストランなどがあり、夏場にはビアガーデンや花火大会も開かれていました。

斑鳩（いかるが）の文化財めぐり